フィールド（現場）からの風 688

宮田守男

今日13日は「苗字制定記念日」（名字の日）だ。明治政府が「平民も必ず姓を称し、不詳のものは新たにつけるように」と、苗字を名乗ることを義務付ける「平民苗字必称義務令」を明治8年に交付したことに因んだ記念日だ。当時は読み書きが不得手の人が多く、苗字をつけたら税金を課せられるのではないかなどの懸念からなかなか浸透しなかった。

ミラノ・コルティナ冬季オリンピックの第1日目に日本選手が金・銀・銅メダルを獲得し大会への関心が非常に高まっている。1998年の長野冬季オリンピックは、大会前にサラマンチIOC会長が「オリンピックの成功は開催国の選手の活躍次第だ」と発言したことを覚えている。

「世界の白馬」への夢を馳せた取り組みを忘れてはいけない

第4日目に清水宏保選手がスピードスケート男子500㍍で日本スケート界初の金メダルを獲得。第5日目に里谷多英選手がフリースタイルスキー女子モーグルで冬季大会史上、日本初の女子金メダリストが誕生。白馬ジャンプ競技場ではノーマルヒルで船木和喜選手が銀メダルを獲得。第9日目にはラージヒルジャンプ競技で船木和喜選手は飛型審判員5人全員が満点を付け金メダル、そして原田雅彦選手は最長不倒136㍍の大ジャンプで銅メダルを。第11日目は猛吹雪の中35000人の大観衆の中、ジャンプ団体戦で2回目4人の選手の完璧なジャンプで逆転し金メダル獲得は今でも多くの国民が鮮明に記憶しているに違いない。日本に活気を醸成させる日本人の活躍には、競技選手が激減する中で選手強化には国家レベルで取り組んでと願うばかりだ。

オリンピック白馬会場の成功に尽力いただいた皆さんから、便りをいただくことが多い。長野オリンピック開会の1週間前に八方尾根名木山ゲレンデでスバル自動車が協賛して開催した伝説のレース「98白馬レガシィレース」の事務局長を担当した矢島英幸さんが当時の記録を語り継いでほしいとの便りだった。長野大会以前の冬季オリンピック・アルペンスキーを彩った歴代メダリストが参加して、賞金付きパラレルレースを開催、優勝者はトニー・ザイラーだった。当時白馬を世界的なスキーリゾートとして認知させるために、非常に多くの皆さんの取り組みがあったからこそ今の白馬がある事を忘れてはいけない。

（信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上）

白馬駅前・藤屋食堂にも夕食時多くの外国からの皆さん笑顔があふれている